

うず

瀋陽の日本総領事館に入ろうとした5人が無事韓国に到着し、これで一件落着やれやれだ。

この問題、中国の警官が総領事館の敷地に入ったのに入らなかったの、日本側が了解したのしなかったの、あるいは大使の追い返せの発言などさまざまに報道されている。

しかし、本当の問題は日本としてどうするつもりだったのか、中国の警官が5人を連れ出さなかったら総領事館は5人を亡命者として受け入れたのか、あるいは大使の指示通り追い返し、中国側に警備が不十分だと文句を言ったのか、そこが今に曖昧なままということだ。

この対応次第で今後も同様な駆け込み

が増えることもあるだろう。この点を明確にして対外的にも明らかにするまで、今回の問題は解決したとは言えない。

ひるがえって、われわれの日常でもこのような想定外の出来事は多々ある。あらかじめすべての事態を想定しておくというのは非現実的だ。

とは言え、そのような想定外の出来事

リスク管理

に対し、いつのまにか決着がついてしまったからもう忘れてしまえというのではなく、これを機会にまた同様な事態になった時、どのように対処するかあらかじめ考えをまとめておく。不確実な出来事に対してあらかじめ対応策を用意しておく、事前に手を打っておくことができる

のであればそれをして、少しでも被害を減少させておく。これがリスク管理というものだろう。

世の中は不確実なことに満ちあふれている。そのうち一部でもコントロール可能な部分についてコントロールし、回避できるものは回避し、対応策を立てられるものはあらかじめ立てておく、予防措置が可能なものはそれを行うことにより、不確実性の結果としてのネガティブな影響をできるだけ小さくしておく。これがリスク管理であり、そのためのアドバイスをするのがわれわれの仕事だ。その意味で今回の事件がリスク管理の専門家である保険関係者に示唆するところは大きい。

(桑太郎)